

令和6年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 鍼灸学科

氏名	科目区分	必修選択の別	科目名	授業形式	設定学年	設定時期	時間数	単位数	内容	経歴		役職	業務内容・専門分野等	免許・資格	
										年月	職歴 (一部抜粋)			年月	免許・資格名 (一部抜粋)
原田 菜央	専門	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	※1	はり実技基礎	平成22年4月～平成24年3月	はなまる整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成22年4月	はり師免許
										平成26年4月～平成27年3月	株式会社 Themis		ダンスチームのトレーナーとしてコンディショニング管理、はり治療、きゅう治療を行う。	平成22年4月	きゅう師免許
										平成25年4月～現在	はりきゅうアロマだいたい	院長(開設者)	出張を中心に鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。		
鈴木 陽平	専門	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	※1	きゅう実技基礎	平成14年4月～平成21年3月	あい鍼灸整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成19年4月	はり師免許
										平成28年5月～平成30年5月	エイジレス鍼灸整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成19年4月	きゅう師免許
										平成30年6月～現在	岩瀬こころ鍼灸院	院長(開設者)	施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う		
高木 敏和	専門	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	※1	はりきゅう用具の適切な使用と術式、衛生・リスク管理	平成11年4月～現在	蕨山はりきゅう院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	昭和56年6月	はり師免許師
										平成12年4月～現在	岸クリニック		リハビリ業務を扱う	昭和56年6月	きゅう師免許
														昭和55年4月	あん摩マッサージ指圧師免許
山崎 康平	専門	必修	東洋医学概論Ⅰ	講義	第1学年	前期	40	2	気血津液精、陰陽、臓腑の生理・病理	平成27年5月～現在	ユリ治療室		施術所において、鍼灸師として東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う	平成27年4月	はり師免許師
	専門	必修	東洋医学臨床論Ⅱ	講義	第3学年	前期	40	2	中医学・弁証論治	平成29年4月～現在	おおもり東口はりきゅう治療室		施術所において、鍼灸師として東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う	平成27年4月	きゅう師免許
														平成27年4月	あん摩マッサージ指圧師免許
鬼頭 健介	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅱ	講義	第2学年	前期	40	2	トレーニング指導、運動心理	平成14年4月～平成15年9月	愛知県立安城南高等学校 硬式野球部トレーナー		高校野球部トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成12年3月	中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
										平成15年10月～平成30年12月	株式会社 読売巨人軍トレーナー		巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成15年6月	はり師免許師
														平成15年6月	きゅう師免許
														平成15年6月	あん摩マッサージ指圧師免許
合計							240	10							

※1 はりきゅう実技Ⅰは上記3授業をもって4単位と換算する。

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	鬼頭健介
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。グループワークの中で発表の準備を通じて、より深い知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムを作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス/グループワークの説明			
	2	体力学総論			
	3	スポーツ選手の競技力向上と栄養			
	4	運動と心理①基礎理論			
	5	②スポーツ選手の競技力向上と栄養			
	6	③一般人の健康増進への活用			
	7	救急処置法			
	8	スポーツ選手の整形外科的傷害と予防			
	9	運動指導のための情報収集と活用 / 前半まとめ			
	10	グループワーク			
	11	グループワーク発表/子どものスポーツ			
	12	グループワーク発表/女性アスリート			
	13	グループワーク発表/プロテイン			
	14	自重トレ・チューブエクササイズ①			
	15	自重トレ・チューブエクササイズ②			
	16	運動指導の科学			
	17	総復習			
	18	確認試験			
	19	試験解説・ポイント説明・おさらい			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / ☑発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程		担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ		授業方法	実習	講師名	高木敏和
授業目標	施術で用いる鍼および灸についての基礎を理解する。鍼灸治療の手技の種類や技術を学び、正しくリスク管理ができるようにする。					
実務経験のある教員等による授業科目		平成11年4月より蕪山はりきゅう院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、はりきゅう施術の手技の種類や技術について授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容				
	1	鍼および灸術の定義， など				
	2	鍼の基礎知識 (1)用具の説明， など				
	3	鍼の基礎知識 (2)古代九鍼				
	4	刺鍼の方式と術式(1)前揉法・後揉法， など				
	5	刺鍼の方式と術式(2)押手・刺手・切皮				
	6	刺鍼の方式と術式(3)基本手技Ⅰ				
	7	刺鍼の方式と術式(4)基本手技Ⅱ				
	8	特殊鍼法 (1)小児鍼・皮内鍼・円皮鍼				
	9	特殊鍼法 (2)灸頭鍼・低周波鍼通電法， など				
	10	鍼の臨床応用				
	11	リスク管理 (1)過誤・副作用				
	12	リスク管理 (2)感染症対策				
	13	灸の基礎知識				
	14	灸の種類 (1)有痕灸				
	15	灸の種類 (2)無痕灸				
	16	灸の臨床応用				
	17	リスク管理				
	18	後期試験(筆記試験)				
	19	解説・採点のポイントを説明				
	20	まとめ				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合	
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			9 割	
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 □授業態度 / その他()			1 割	
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
参考図書	教科書・参考書名		東洋療法学校協会 はりきゅう理論、はりきゅう実技， など			
	配布資料の有無		有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実習	講師名	鈴木陽平
授業目標	灸施術を行うにあたり、艾(もぐさ)を捻る、立てる、着火する、適切に緩和することができるように技術を磨いていく。 目標:板上施灸、米粒大を3分間で20壮以上できるようになる。 指定された経穴に安全に灸ができるようにする。経穴を口頭試問で言えるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成30年6月より岩瀬こころ鍼灸院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎きゅう実技の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、実技道具の説明、灸の基礎知識について			
	2	有痕灸、無痕灸について もぐさのひねり方			
	3	もぐさの種類、もぐさ捻り練習			
	4	灸基礎練習① 着火の練習			
	5	灸基礎練習②			
	6	灸基礎練習③			
	7	灸基礎練習④			
	8	自己施灸(三陰交、復溜)知熱灸			
	9	自己施灸(血海、梁丘)知熱灸			
	10	自己施灸(足三里、陰陵泉)透熱灸			
	11	板上施灸小テスト(目標10壮以上)			
	12	対人施灸(曲池、合谷)			
	13	対人施灸(偏歴、温溜)			
	14	対人施灸(腰陽関、命門)			
	15	対人施灸(身柱、至陽)			
	16	対人施灸(肺俞・膏肓・膈俞)			
	17	試験前 総まとめ			
	18	前期試験			
	19	竹筒を用いた灸(深谷灸法実践)			
	20	澤田流太極療法実践			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			10割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう実技<基礎編>			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実 技	講師名	原田 菜央
授業目標	鍼治療の基本的な知識を学び、刺鍼の技術を習得することを目標とし、実技を行うにあたっての心構え、所作を身に付ける。使用する鍼の名称や種類、取り扱い方法を学び刺鍼における危険性や安全管理を学習する。直刺、斜刺、横刺を正確に刺入することができる。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成25年4月よりはりきゅうアロマだいたいを開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎はり実技の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、実技室の使用方法、消毒法(手洗い、手指消毒)			
	2	挿管法、管鍼法(一連の動作)の確認			
	3	挿管法、刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)			
	4	刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)			
	5	刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)、刺鍼中の手技(17 手技)			
	6	刺鍼の角度(刺鍼練習台による練習)、刺鍼中の手技(17 手技)			
	7	浮き物通し			
	8	中間試験練習			
	9	中間試験 (実技)			
	10	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	11	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	12	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	13	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	14	刺鍼練習(自身の下腿への取穴、刺鍼練習)			
	15	刺鍼練習(取穴、下腿への刺鍼練習)			
	16	刺鍼練習(取穴、下腿への刺鍼練習)			
	17	前期試験 (筆記試験)			
	18	前期試験 (実技試験)			
	19	解説・採点の説明			
	20	前期総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / ☑中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / ☑その他(持ち物)			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	教科書(はりきゅう実技〈基礎編〉) その他適宜資料配布			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	東洋医学概論Ⅰ	授業方法	講義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学の思想・世界観と人体との相関関係を理解する。また、気血津液精、陰陽、臓腑などの東洋医学に特有な人体の捉え方を学び、それらの生理と病理を理論立てて学ぶことで、弁証論治を行う際に活用できる形での知識の習得を目指す。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	第1章 東洋医学の特徴(P2～36)			
	3	第2章 生理と病理(P37～180) ①生理物質:気(P42～50)			
	4	②生理物質:血(P50～53)			
	5	③生理物質:津液(54～58)			
	6	④生理物質:精(P38～42)			
	7	⑤生理物質の相互関係(P58～62)			
	8	⑥神(P62～68)			
	9	⑦陰陽学説、人体における陰陽(P68～73、182～187)			
	10	⑧五行学説、蔵象(P74～77、188～200)			
	11	⑨五臓:肝系統(P77～87)			
	12	⑩五臓:心系統(P87～97)			
	13	⑪五臓:脾系統(P97～106)			
	14	⑫五臓:肺系統(P106～115)			
	15	⑬五臓:腎系統、三焦(P115～127)			
	16	⑭五臓の相互関係(P127～142)			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 / ☑出席状況 ☑授業態度(減点方式) / その他()			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会『新版 東洋医学概論』			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学臨床論Ⅰに引き続き、気血津液精、陰陽、臓腑の生理・病理などの東洋医学的な基礎知識、および四診情報の解釈の理論を応用しながら、具体的な症例に対し弁証論治の訓練を行い、臨床で活用可能な知識を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学臨床論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 咳嗽と咯痰			
	2	呼吸困難			
	3	鼻閉・鼻汁			
	4	脱毛症			
	5	耳鳴り・難聴			
	6	排尿障害			
	7	ED（勃起障害）			
	8	疲労と倦怠感			
	9	発熱、のぼせと冷え			
	10	浮腫			
	11	掻痒感（痒み）・肌荒れ・発疹			
	12	顔面麻痺			
	13	歩行異常			
	14	口渇・出血傾向			
	15	月経異常・性器出血など			
	16	小児特有の症候・認知症			
	17	まとめ			
	18	前期試験（筆記試験）			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 / ☑出席状況 ☑授業態度（減点方式） / その他（ ）			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	『新版 東洋医学概論』、『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する (100点満点で点数化)						
学科名	鍼灸学科	学年	1	学生数	30	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	1	1	0	5	10	13
下位1/4に該当する人数 7人						
下位1/4に該当する指標の数値 79.0点以下						

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1年
科目名	コミュニケーション	授業方法	講 義	講師名	高田朋香
授業目標	自己分析と他己分析からコミュニケーションのコツを掴み、鍼灸師として必要なコミュニケーション能力を高め、医療面接・問診に活用できるようにする。				
授業内容及び進度	回数	講義	項目・内容		
	1	講義	オリエンテーション。自己紹介ゲーム。		
	2	〃	第1章 診察の概要(p1-6)		
	3	〃	第2章 医療面接(p7-18)		
	4	〃	第2章 医療面接(p7-18)		
	5	〃	第2章 医療面接(p7-18)		
	6	〃	医療面接 概論 多様性		
	7	〃	性格診断テスト「個性心理学」「エニアグラム」から自己分析と他己分析をする。		
	8	〃	相手との共通点を見つける。好感、信頼感の高め方。		
	9	〃	伝わる話し方。伝わらない話し方。		
	10	〃	クレーム対応。危機管理。(個性による対応の違いを体験する)		
	11	〃	傾聴・共感 「話し手」「聞き手」役になって練習		
	12	〃	中間テスト復習		
	13	〃	医療面接 実践		
	14	〃	医療面接 実践		
	15	〃	練習 模擬試験		
	16	〃	練習 模擬試験		
	17	〃	練習 模擬試験		
	18	〃	期末テスト(実践)		
	19	〃	医療面接 臨床編		
	20	〃	医療面接 臨床編		
成績評価の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ■実技試験 / □その他(レポート) ※□マークシートを用いる			6割
	定期試験外 評価法	□小テスト / ■中間テスト / □発表			2割
	その他評価法	■出席状況 / ■授業態度 / その他(提出物)			2割
	備 考	1欠席につき3点のマイナスとする。1遅刻は1点。			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	臨床医学総論			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある。

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程		担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ		授業方法	実 習	講師名	高木敏和
授業目標	施術で用いる鍼および灸についての基礎を理解する。鍼灸治療の手技の種類や技術を学び、正しくリスク管理ができるようにする。					
実務経験のある教員等による授業科目		平成11年4月より菰山はりきゅう院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、はりきゅう施術の手技の種類や技術について授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容				
	1	鍼および灸術の定義, など				
	2	鍼の基礎知識 (1)用具の説明, など				
	3	鍼の基礎知識 (2)古代九鍼				
	4	刺鍼の方式と術式(1)前揉法・後揉法, など				
	5	刺鍼の方式と術式(2)押手・刺手・切皮				
	6	刺鍼の方式と術式(3)基本手技Ⅰ				
	7	刺鍼の方式と術式(4)基本手技Ⅱ				
	8	特殊鍼法 (1)小児鍼・皮内鍼・円皮鍼				
	9	特殊鍼法 (2)灸頭鍼・低周波鍼通電法, など				
	10	鍼の臨床応用				
	11	リスク管理 (1)過誤・副作用				
	12	リスク管理 (2)感染症対策				
	13	灸の基礎知識				
	14	灸の種類 (1)有痕灸				
	15	灸の種類 (2)無痕灸				
	16	灸の臨床応用				
	17	リスク管理				
	18	後期試験(筆記試験)				
	19	解説・採点のポイントを説明				
	20	まとめ				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)				評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()				9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 □授業態度 / その他()				1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
参考図書	教科書・参考書名		東洋療法学校協会 はりきゅう理論、はりきゅう実技, など			
	配布資料の有無		有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実 習	講師名	鈴木 陽平
授業目標	灸施術を行うにあたり、艾(もぐさ)を捻る、立てる、着火する、適切に緩和することができるように技術を磨いていく。 目標:板上施灸、米粒大を3分間で20壮以上できるようになる。 指定された経穴に安全に灸ができるようにする。経穴を口頭試問で言えるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成30年6月より岩瀬こころ鍼灸院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎きゅう実技の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、実技道具の説明、灸の基礎知識について			
	2	有痕灸、無痕灸について もぐさのひねり方			
	3	もぐさの種類、もぐさ捻り練習			
	4	灸基礎練習① 着火の練習			
	5	灸基礎練習②			
	6	灸基礎練習③			
	7	灸基礎練習④			
	8	自己施灸（三陰交、復溜）知熱灸			
	9	自己施灸（血海、梁丘）知熱灸			
	10	自己施灸（足三里、陰陵泉）透熱灸			
	11	板上施灸小テスト（目標10壮以上）			
	12	対人施灸（曲池、合谷）			
	13	対人施灸（偏歴、温溜）			
	14	対人施灸（腰陽関、命門）			
	15	対人施灸（身柱、至陽）			
	16	対人施灸（肺俞・膏肓・膈俞）			
	17	試験前 総まとめ			
	18	前期試験			
	19	竹筒を用いた灸（深谷灸法実践）			
	20	澤田流太極療法実践			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他（ ）			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他（ ）			割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう実技＜基礎編＞			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実 習	講師名	原田 菜央
授業目標	鍼治療の基本的な知識を学び、刺鍼の技術を習得することを目標とし、実技を行うにあたっての心構え、所作を身に付ける。使用する鍼の名称や種類、取り扱い方法を学び刺鍼における危険性や安全管理を学習する。直刺、斜刺、横刺を正確に刺入することができる。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成25年4月よりはりきゅうアロマだいたいを開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎はり実技の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、実技室の使用法、消毒法(手洗い、手指消毒)			
	2	挿管法、管鍼法(一連の動作)の確認			
	3	挿管法、刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)			
	4	刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)			
	5	刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)、刺鍼中の手技(17 手技)			
	6	刺鍼の角度(刺鍼練習台による練習)、刺鍼中の手技(17 手技)			
	7	浮き物通し			
	8	中間試験練習			
	9	中間試験 (実技)			
	10	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	11	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	12	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	13	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	14	刺鍼練習(自身の下腿への取穴、刺鍼練習)			
	15	刺鍼練習(取穴、下腿への刺鍼練習)			
	16	刺鍼練習(取穴、下腿への刺鍼練習)			
	17	前期試験 (筆記試験)			
	18	前期試験 (実技試験)			
	19	解説・採点の説明			
	20	前期総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / ☑中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / ☑その他(持ち物)			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	教科書(はりきゅう実技〈基礎編〉) その他適宜資料配布			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	解剖学 I a	授業方法	講 義	講師名	櫻井 迪代
授業目標	鍼灸師として西洋医学的に人体の評価、触診、病気を理解する際に必要な知識を習得し臨床に活かせるようにする。また、3年間の学習の基礎を整える。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション(今から学習すること全体を捉えよう)・第 16 章 運動器系 I 総論			
	2	第 16 章 運動器系 I 総論 P160-168			
	3	第 16 章 運動器系 II 全人の骨格 脊柱の解剖 P169-176			
	4	〃			
	5	〃			
	6	〃 下肢の解剖 P187-198			
	7	〃			
	8	〃			
	9	〃 復習・テストのポイント確認			
	10	中間テスト			
	11	〃 上肢の解剖 P179-187			
	12	〃			
	13	〃			
	14	〃 頭蓋骨の解剖 P198-210			
	15	〃			
	16	〃			
	17	〃 復習・テストのポイント確認			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明・前期の復習			
	20	〃			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 解剖学 第 2 版			
	配布資料の有無	有 (希望者には PDF 配布可)			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	解剖学 I b	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	筋肉がどこに付着しているのか、普段どのような時にどこ筋肉を使っているのかを学び、臨床に生かせる知識を身に着ける。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション(解剖学ってなんだろう?)			
	2	第 10 章 運動器系 体の運動			
	3	〃 浅胸筋・深胸筋 (p211-214)			
	4	〃 腹筋・会陰筋 (p214-219)			
	5	〃 背筋・深背筋 (p219-224)			
	6	第 10 章 運動器系 III 体幹 3 上肢の筋(P238～242)			
	7	〃			
	8	試験前復習			
	9	中間試験			
	10	〃 前腕の屈筋(P238～245)			
	11	〃 前腕の伸筋(P245～249)			
	12	第 10 章 運動器系 V 下肢の筋(P265～274)			
	13	〃 大腿の筋(P238～242)			
	14	〃 下腿の筋(P274～279)			
	15	〃 足の筋(P279～282)			
	16	第 10 章 運動器系 VI 頭頸部の筋(P297)			
	17	試験前復習			
	18	定期試験			
	19	試験解説			
	20	総まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 解剖学 第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1年
科目名	基礎経絡経穴概論 I	授業方法	講 義	講師名	小名木 年邦
授業目標	経絡経穴の概要を捉え、専門用語、経穴の名称や取穴部位の理解を深める。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、			
	2	経絡経穴概論基礎①(P.2～4)			
	3	経絡経穴概論基礎②(P.5～9)			
	4	経絡経穴概論基礎③(P.5～9)			
	5	小テスト① 経絡経穴概論基礎④(P.9)			
	6	経穴に必要な用語①(P.20～23)			
	7	経穴に必要な用語②(P.20～23)			
	8	経穴に必要な用語③(P.20～23)			
	9	小テスト② 督脈①(P.26～39)			
	10	督脈②(P.26～39) 任脈①(P.40～51)			
	11	任脈②(P.40～51)			
	12	手の太陰肺経(P.52～59) 取穴(実技室 or 教室)			
	13	取穴(実技室 or 教室) 手の陽明大腸経①(P.60～71)			
	14	小テスト③ 手の陽明大腸経②(P.60～71)			
	15	足の陽明胃経①(P.72～91)			
	16	足の陽明胃経②(P.72～91)			
	17	定期試験前総復習・試験対策			
	18	前期定期試験(筆記試験)			
	19	解答・解説 採点ポイントを説明			
	20	取穴(実技室 or 教室)			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 経絡経穴概論 第2版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	櫻井 迪代
授業目標	臨床における症状や検査法の基礎を学び、臨床においてのリスク回避や適切な対応ができるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	テスト法の意義 頸部のテスト法			
	2	頸部のテスト法			
	3	上肢のテスト法			
	4	上肢のテスト法			
	5	上肢のテスト法			
	6	下肢のテスト法			
	7	下肢のテスト法			
	8	下肢のテスト法			
	9	下肢のテスト法			
	10	テスト法 解説			
	11	中間テスト 復習			
	12	中間テスト			
	13	腱反射・粘膜反射・皮膚反射・ MMT			
	14	病的反射			
	15	テスト法と経穴			
	16	テスト法と経穴			
	17	テスト前復習			
	18	後期試験			
	19	身体計測、評価、治療			
	20	身体計測、評価、治療			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 臨床医学総論 第 2 版、配布資料			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	公衆衛生学	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	人の生存に影響を及ぼす要因を学び、患者に対して健康保持、増進のアドバイスが出来るように学習する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、第 5 章 産業保健① P135～			
	2	〃			
	3	第 2 章 健康 P11～			
	4	〃			
	5	第 3 章 ライフスタイルと健康 P41～			
	6	〃			
	7	〃			
	8	第 4 章 環境と健康 P75～			
	9	〃			
	10	〃			
	11	第 10 章 感染症とその対策 P205～			
	12	〃			
	13	〃			
	14	第 11 章 消毒法① P227～			
	15	〃			
	16	第 12 章 疫学 P247～			
	17	第 13 章 保健統計 P257～			
	18	定期試験			
	19	試験解説			
	20	総まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			欠席－3点 遅刻・早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 公衆衛生学 第 2 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1年
科目名	社会保障制度	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	医療従事者として社会保障制度の仕組みについて学び、日本の社会保障制度がどのように利用されているのかを理解する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、 第 2 章 現代の医療制度(P86～92)			
	2	医療保険			
	3	〃			
	4	生活保護法			
	5	国民医療費			
	6	〃			
	7	成人・老人保健			
	8	〃			
	9	〃			
	10	〃			
	11	母子保健法			
	12	〃			
	13	精神保健法			
	14	〃			
	15	学校保健			
	16	〃			
	17	〃			
	18	定期試験(筆記試験)			
	19	試験解説			
	20	前期授業復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			欠席－3点 遅刻・早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 公衆衛生学			
	配布資料の有無	☒ 有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	職業倫理	授業方法	講 義	講師名	森田 範子
授業目標	医療についての倫理や制度を学び、その課題について考える。 医療従事者として、患者に寄り添えるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	医療従事者・医療施設			
	3	医療と医療経済			
	4	医療保険			
	5	医療保険			
	6	公費医療負担制度・介護サービス行政			
	7	介護サービス行政			
	8	医療倫理			
	9	医療倫理			
	10	医療倫理			
	11	医療倫理			
	12	医療倫理			
	13	グループワーク			
	14	グループワーク			
	15	グループワーク			
	16	グループワーク			
	17	まとめ			
	18	定期試験(筆記試験)			
	19	解説			
	20	総まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 / ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	医療概論 東洋療法学校協会編			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	生理学 I a	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	各組織の生理的働きを理解することで臨床医学の基礎を作り、鑑別・診断から治療・指導までの一貫した治療システムを構築、実践できるようにする。 細胞、血液、免疫系の基本的な働きについて説明できるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、 第1章 生理学の基礎(解剖学 細胞含む)			
	2	生理学の特徴			
	3	細胞の構造と働き			
	4	物質代謝の仕組み			
	5	体液の組成と働き、物質の移動			
	6	第2章 血液			
	7	血液の組成と働き			
	8	〃			
	9	血液凝固の仕組み			
	10	血液型			
	11	第14 章 生体の防御機構			
	12	生体の防御機構と免疫			
	13	生体の防御機構に働く組織と因子			
	14	免疫反応の分類			
	15	炎症とアレルギー			
	16	前期復習			
	17	〃			
	18	定期試験			
	19	解 説			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況/ ☐ 授業態度 / その他()			2割 欠席－3点、遅刻－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 生理学 解剖学			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	東洋医学概論Ⅰ	授業方法	講 義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学の思想・世界観と人体との相関関係を理解する。また、気血津液精、陰陽、臓腑などの東洋医学に特有な人体の捉え方を学び、それらの生理と病理を理論立てて学ぶことで、弁証論治を行う際に活用できる形での知識の習得を目指す。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	第1章 東洋医学の特徴(P2～36)			
	3	第2章 生理と病理(P37～180) ①生理物質:気(P42～50)			
	4	②生理物質:血(P50～53)			
	5	③生理物質:津液(54～58)			
	6	④生理物質:精(P38～42)			
	7	⑤生理物質の相互関係(P58～62)			
	8	⑥神(P62～68)			
	9	⑦陰陽学説、人体における陰陽(P68～73、182～187)			
	10	⑧五行学説、蔵象(P74～77、188～200)			
	11	⑨五臓:肝系統(P77～87)			
	12	⑩五臓:心系統(P87～97)			
	13	⑪五臓:脾系統(P97～106)			
	14	⑫五臓:肺系統(P106～115)			
	15	⑬五臓:腎系統、三焦(P115～127)			
	16	⑭五臓の相互関係(P127～142)			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 / ☑出席状況 ☑授業態度(減点方式) / その他()			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会『新版 東洋医学概論』			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。グループワークの中で発表の準備を通じて、より深い知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス/グループワークの説明			
	2	体力学総論			
	3	スポーツ選手の競技力向上と栄養			
	4	運動と心理①基礎理論			
	5	②スポーツ選手の競技力向上と栄養			
	6	③一般人の健康増進への活用			
	7	救急処置法			
	8	スポーツ選手の整形外科的傷害と予防			
	9	運動指導のための情報収集と活用 / 前半まとめ			
	10	グループワーク			
	11	グループワーク発表/子どものスポーツ			
	12	グループワーク発表/女性アスリート			
	13	グループワーク発表/プロテイン			
	14	自重トレ・チューブエクササイズ①			
	15	自重トレ・チューブエクササイズ②			
	16	運動指導の科学			
	17	総復習			
	18	確認試験			
	19	試験解説・ポイント説明・おさらい			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / ☑発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	2年		
科目名	はりきゅう実技Ⅲ	授業方法	実習	講師名	原田 菜央		
授業目標	鍼灸を用いた様々な手技を学び、鍼灸の治療に幅を持たせる。それぞれの手法における特徴や適応を理解し、特殊鍼法を通して鍼灸治療に対する探究心を養う。						
実務経験のある教員等による授業科目							
授業内容及び進度	回数	項目・内容					
	1	オリエンテーション(授業の概要 評価方法 諸注意)					
	2	小児鍼法(基礎)					
	3	小児鍼法(応用)					
	4	皮内鍼・円皮鍼(基礎)					
	5	皮内鍼・円皮鍼(応用)					
	6	台座灸					
	7	灸頭鍼(基礎)					
	8	灸頭鍼(応用)					
	9	長鍼・中国針(基礎)					
	10	長鍼・中国針(応用)					
	11	吸角法(基礎)					
	12	吸角法(応用)					
	13	頭皮鍼法					
	14	耳鍼法					
	15	運動鍼(基礎)					
	16	運動鍼(応用)					
	17	前期試験①(実技)					
	18	前期試験②(筆記)					
	19	解答と解説					
	20	まとめ					
成績評価の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他()			10 割		
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 / ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / ☒ その他(持ち物)			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会編 はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 はりきゅう実技(基礎編)					
	配布資料の有無	有					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2年
科目名	はりきゅう実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	中澤 寛元
授業目標	鍼を刺入する部位である筋の構成について、解剖学の講義で学んだ知識を基に実際に刺入・通電することで、解剖学の復習とともに目視不可能な生体内の状態を推論する能力を養う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 通電の実際、腰部への通電1			
	2	腰部への通電 2			
	3	下腿後面への通電 1			
	4	下腿後面への通電 2			
	5	下腿前面への通電 1			
	6	下腿前面への通電 2			
	7	前腕前面への通電 1			
	8	前腕前面への通電 2			
	9	前半まとめ			
	10	中間テスト			
	11	前腕後面への通電 1			
	12	前腕後面への通電 2			
	13	肩背部への通電 1			
	14	肩背部への通電 2			
	15	肩背部への通電 3			
	16	肩背部への通電 4			
	17	後半まとめ			
	18	期末試験			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	前期のポイントの復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表/ ☒ 出席状況 □授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 解剖学、経絡経穴概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2年
科目名	運動学	授業方法	講 義	講師名	小名木 年邦
授業目標	運動学を通して、運動に関わる骨・筋肉を復習し理解を深める。リハビリテーション科目として国家試験に出題される内容を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、運動の基礎 関節と運動の力学(回転力:トルク、てこ) p.183～186			
	2	空間における関節運動 重心と重心線 p.186～188			
	3	抗重力筋 歩行 p.188 p.235			
	4	歩行 歩行サイクル 歩行速度とエネルギー消費 p.235～236			
	5	歩行分析① p.237			
	6	歩行分析②			
	7	歩行分析③			
	8	歩行時の関節の動きと筋活動 p.239			
	9	小テスト① 脊柱・体幹の機能 脊柱 椎骨 p.198			
	10	椎骨(頸部) p.198			
	11	椎骨(胸部) p.198			
	12	椎骨(腰部) p.198			
	13	胸郭 p.201 胸郭の動きと呼吸筋① p.202			
	14	小テスト② 肩甲帯・骨の構造～肩甲上腕リズム p.202～207			
	15	肘と前腕の機能～回内・回外運動と ADLp.208～p.211			
	16	手と手指の機能～手指の外転と内転 p.212～p.215			
	17	母指に作用する筋～内在性プラスとマイナス肢位 p.217～p.218 定期試験対策			
	18	前記定期試験(筆記試験)			
	19	解答・解説 採点ポイントを説明			
	20	骨盤と股関節の機能 p.219～p.223			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	リハビリテーション医学 第4版			
	配布資料の有無	(有)・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	解剖学	授業方法	講 義	講師名	谷 美里
授業目標	人体の構造に興味を持ち、理解すること。 暗記科目ではあるが、臨床で使うため知識を習得すること。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンスー血管と循環			
	2	循環器ー心臓の構造			
	3	循環器ー動脈（大動脈・頭・頸部の動脈）			
	4	循環器ー動脈（上肢の動脈）			
	5	循環器ー動脈（胸大動脈・腹大動脈）			
	6	循環器ー動脈のまとめ			
	7	循環器ー静脈系			
	8	循環器ー静脈系			
	9	循環器ー胎児循環			
	10	循環器ーリンパ系			
	11	循環器ー胎児循環			
	12	循環器まとめ			
	13	中間テスト			
	14	消化器ー口・唾液腺・咽頭・食道			
	15	消化器ー胃・小腸・大腸			
	16	消化器ー肝臓・胆嚢・膵臓・胸膜			
	17	消化器ーまとめ			
	18	定期試験			
	19	試験解説・呼吸器			
	20	呼吸器			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他（ ）			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 解剖学 第3版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	櫻井 迪代
授業目標	臨床における症状や検査法の基礎を学び、臨床においてのリスク回避や適切な対応ができるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	テスト法の意義 頸部のテスト法			
	2	頸部のテスト法			
	3	上肢のテスト法			
	4	上肢のテスト法			
	5	上肢のテスト法			
	6	下肢のテスト法			
	7	下肢のテスト法			
	8	下肢のテスト法			
	9	下肢のテスト法			
	10	テスト法 解説			
	11	中間テスト 復習			
	12	中間テスト			
	13	腱反射・粘膜反射・皮膚反射・ MMT			
	14	病的反射			
	15	テスト法と経穴			
	16	テスト法と経穴			
	17	テスト前復習			
	18	後期試験			
	19	身体計測、評価、治療			
	20	身体計測、評価、治療			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 臨床医学総論 第 2 版、配布資料			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	社会保障制度	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	医療従事者として社会保障制度の仕組みについて学び、日本の社会保障制度がどのように利用されているのかを理解する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、 第 2 章 現代の医療制度(P86～92)			
	2	医療保険			
	3	〃			
	4	生活保護法			
	5	国民医療費			
	6	〃			
	7	成人・老人保健			
	8	〃			
	9	〃			
	10	〃			
	11	母子保健法			
	12	〃			
	13	精神保健法			
	14	〃			
	15	学校保健			
	16	〃			
	17	〃			
	18	定期試験(筆記試験)			
	19	試験解説			
	20	前期授業復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			欠席－3点 遅刻・早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 公衆衛生学			
	配布資料の有無	☒ 有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	生理学Ⅱa	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	各臓器の生理的働きを理解することで臨床医学の基礎を作り、鑑別・診断から治療・指導までの一貫した治療システムを構築、実践できるようにする。 内臓の機能や特徴について説明できるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	第2章 循環			
	3	循 環②			
	4	循 環③			
	5	循 環④			
	6	循 環⑤			
	7	第3章 呼 吸			
	8	呼 吸②			
	9	呼 吸③			
	10	呼 吸④			
	11	第4章 消化と吸収			
	12	消化と吸収②			
	13	消化と吸収③			
	14	消化と吸収④			
	15	消化と吸収⑤			
	16	前期範囲復習①			
	17	前期範囲復習②			
	18	定期試験			
	19	解 説			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況/ ☐ 授業態度 / その他()			2割 欠席－3点、遅刻－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 生理学			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	2 年
科目名	東洋医学概論Ⅲ	授業方法	講義	講師名	原田 菜央
授業目標	「東洋医学概論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ気血津液精、陰陽、臓腑などの生理・病理についての基礎知識、および四診情報の分析法など応用知識を活用しながら病証に対する考え方および治療法を学ぶ。また臨床的な四診実践を行い人間力を養う。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、評価方法について			
	2	気血津液病証 気の病理病証 1			
	3	気血津液病証 気の病理病証 2			
	4	気血津液病証 血の病理病証			
	5	気血津液病証 津液の病理病証			
	6	気血津液病証 精、陰陽の病理病証			
	7	気血津液病証 まとめ			
	8	臓腑病証 五臓病証 肝 1			
	9	臓腑病証 五臓病証 肝 2			
	10	臓腑病証 五臓病証 心			
	11	臓腑病証 五臓病証 脾			
	12	臓腑病証 六腑病証 胃			
	13	臓腑病証 五臓病証 肺			
	14	臓腑病証 五臓病証 腎			
	15	経絡病証 1			
	16	経絡病証 2			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験			6割
	定期試験 外評価法	☑中間テスト / ☑出席状況			4割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会「東洋医学概論」「東洋医学臨床論くはりきゅう編」			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	2 年
科目名	病理学概論	授業方法	講義	講師名	原田 菜央
授業目標	組織や細胞レベルでの病態を学ぶことで疾病の成り立ちを理解する。 成因と生理を学び症状との結びつきを理解し、発症のメカニズムを学ぶ。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション			
	2	第 1 章 病理学とは			
	3	第 2 章 疾病			
	4	第 3 章 病因①			
	5	第 3 章 病因②			
	6	第 3 章 病因③			
	7	第 4 章 循環障害①			
	8	第 4 章 循環障害②			
	9	まとめ 試験の要点			
	10	中間試験			
	11	第 5 章 退行性変性			
	12	第 6 章 進行性病変			
	13	第 7 章 炎 症			
	14	第 8 章 腫 瘍①			
	15	第 8 章 腫 瘍②			
	16	第 9 章 免疫異常			
	17	第 1 0 章 先天性疾患			
	18	定期試験（筆記試験）			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	病理学 総括			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験			6割
	定期試験 外評価法	☑中間試験 ☑出席状況 / ☑授業態度			4 割 (※出席状況・態度は減点方 式とする)
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	病理学概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2年
科目名	臨床医学総論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	櫻井 迪代
授業目標	鍼灸師として西洋医学的な病態を把握し、診察に生かすために必要な検査法、検査項目、検査数値の知識を習得する。また、3年生に向けての学習の基礎を整える。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	第 5 章 局所の診察 四肢 P87-104			
	2	解剖 第 10 章 運動器系 VI 頭頸部の筋 (p297-282)			
	3	解剖 第 10 章 運動器系 局所解剖 (p211-309)			
	4	第 6 章 神経系の診察		感覚検査法/反射検査	P105-122
	5	〃		脳神経/髄膜刺激症状/その他	P123-127
	6	第 7 章 運動機能検査		運動麻痺/筋肉の異常/不随意運動/協調運動	P129-139
	7	第 5 章 局所の診察		心臓/腹部/背部/四肢	P87-104
	8	頸部/胸部/乳房/肺・胸膜/目/鼻/耳/口腔		P72-87	
	9	復習・テストのポイント確認			
	10	中間テスト			
	11	第 9 章 臨床検査法		一般検査	P158-164.P175
	12	〃		血液生化学検査	P165-168.P176-177
	13	〃		生理学的検査/画像診断概要.	P169-174.P178-180
	14	第 11 章 治療学		概要/薬物療法	P267-273
	15	〃		食事療法/理学療法/その他の療法	P273-277
	16	第 12 章 臨床心理		P279-285	
	17	復習・テストのポイント確認			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明・前期の復習			
	20	第 10 章 主な症状の診察法			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☑中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名		東洋療法学校協会 臨床医学総論		
	配布資料の有無		(有)・無		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2年
科目名	臨床経絡経穴概論	授業方法	講 義	講師名	小名木年邦
授業目標	国家試験出題頻度が多い授業範囲となるため、経穴名、流注、要穴の暗記、筋・骨、血管などを確認しながら理解を深めていく。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	手の少陽三焦経①			
	2	手の少陽三焦経②			
	3	手の少陽三焦経③ 実技			
	4	小テスト① 足の少陽胆経①			
	5	足の少陽胆経②			
	6	足の少陽胆経③			
	7	足の少陽胆経④ 実技			
	8	足の厥陰肝経①			
	9	小テスト② 奇経八脈 督脈・任脈復習 衝脈(P.212)			
	10	帶脈(P.212) 陽蹻脈①(P.212)			
	11	陽蹻脈② 陰蹻脈①(P.212)			
	12	陽維脈(P.212) 陰維脈(P.212)			
	13	小テスト③ 奇穴(頭部・胸腹部・背部・上肢・下肢)(P.215～228)			
	14	取穴(実技室 or 教室)			
	15	各要穴①(P.10～13)			
	16	各要穴②(P.10～13)			
	17	定期試験前総復習・試験対策			
	18	前記定期試験(筆記試験)			
	19	解答・解説 採点ポイントを説明 経絡現象			
	20	横並びの経穴、各三角にある経穴・動脈拍動部の経穴			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 経絡経穴概論第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	末永 美雪
授業目標	栄養と栄養素の基本的な知識を学び、健康と栄養の関係を理解する。さらに健康の保持・増進、トレーニング効果向上のための栄養摂取の方法と、将来スポーツ現場に関わった際に求められる正しい食生活指導に役立つ知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 国民の健康と栄養			
	2	人間栄養学とスポーツ栄養			
	3	栄養と栄養素			
	4	栄養素の種類と働き その1 糖質、脂質			
	5	栄養素の種類と働き その2 タンパク質			
	6	栄養素の種類と働き その3 ビタミン			
	7	栄養素の種類と働き その4 ミネラル 食物繊維 水			
	8	食物の消化			
	9	栄養素の吸収			
	10	栄養素の代謝 肝臓の働き			
	11	小・中学生・高校生のスポーツと栄養			
	12	大学・実業団・中・高年のスポーツと栄養			
	13	アスリートの栄養と食事① 原則			
	14	アスリートの栄養と食事② 糖質摂取・脂質摂取・タンパク質摂取			
	15	アスリートの栄養と食事③ ビタミン摂取・水分摂取・サプリメント			
	16	アスリートの栄養と食事④ 試合前・当日・試合後の栄養摂取			
	17	スポーツと健康をサポートする活動			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	前期ポイントの復習			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 その他()			5割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 ☑授業態度 (毎時間の提出物)/ その他()			5割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	授業資料を配布する 参考書:知っておきたい栄養学(学研プラス)			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	はりきゅう実技Ⅳ	授業方法	実 習	講師名	原田 菜央
授業目標	実際の臨床を想定し、鍼灸治療の知識や技術を再確認し統合していくことを目標とする。 また、患者の良好なコミュニケーションがとれる鍼灸師を目指す。具体的には、医療面接から治療計画までの一連の流れを、東洋医学の観点から習得できるよう講義を行う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション(授業の概要 評価方法 諸注意)			
	2	難経六十九難を用いた治療①			
	3	難経六十九難を用いた治療②			
	4	難経六十九難を用いた治療③			
	5	難経六十九難を用いた治療④			
	6	経絡治療まとめ			
	7	症例検討①顔面神経麻痺			
	8	症例検討①顔面神経麻痺			
	9	症例検討②胸郭出口症候群			
	10	症例検討②胸郭出口症候群			
	11	認定実技審査前 練習日①			
	12	認定実技審査前 練習日②			
	13	認定実技審査前 練習日③			
	14	認定実技審査前 練習日④			
	15	認定実技審査前 練習日⑤			
	16	認定実技審査前 練習日⑥			
	17	認定実技審査前 練習日⑦			
	18	認定実技審査前 練習日⑧			
	19	総括①			
	20	総括②			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☐ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / ☐ その他(持ち物)			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋医学臨床論、東洋医学概論、臨床医学各論、経絡経穴概論 (東洋療法学校協会編、医歯薬出版社)			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3年
科目名	はりきゅう実技Ⅳ	授業方法	実 習	講師名	高木 敏和
授業目標	臨床において扱うことが多い運動器疾患についての治療体系の習得				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	頸腕症状(1)疾患の鑑別, など			
	2	頸腕症状(2)頸椎症の障害部位の鑑別, など			
	3	頸腕症状(3)TOS の鑑別			
	4	頸腕症状(4)模擬患者による実習			
	5	肩痛(1)疾患の鑑別			
	6	肩痛(2)鑑別テスト			
	7	肩痛(3)模擬患者による実習			
	8	腰痛(1)疾患の鑑別			
	9	腰痛(2)鑑別テスト			
	10	腰痛(3)模擬患者による実習			
	11	腰下肢痛(1)疾患の鑑別			
	12	腰下肢痛(2)鑑別テスト			
	13	腰下肢痛(3)模擬患者による実習			
	14	股関節痛(1)疾患の鑑別			
	15	股関節痛(2)鑑別テスト			
	16	股関節痛(3)模擬患者による実習			
	17	膝痛(1)疾患の鑑別			
	18	膝痛(2)鑑別テスト			
	19	膝痛(3)模擬患者による実習			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	(有)・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある。

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3年
科目名	はりきゅう実技Ⅳ	授業方法	実 習	講師名	小名木 年邦
授業目標	主として経絡治療の基本的な施術内容を学習する。東洋医学概論の知識も付随して必要になるため、技術力向上と知識を深める両面から実践的な技術を学習する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	施術方法の概要(現代・中医学・経絡・その他) 経絡治療 69 難について			
	2	基礎動作・切診(脈診・腹診)・刺鍼方法) デモ①			
	3	デモ②(脈診②) 実技 ・肝虚熱証の補瀉(デモ)			
	4	肝虚熱証の補瀉①			
	5	肝虚熱証の補瀉②			
	6	肝虚寒証の補瀉①			
	7	肝虚寒証の補瀉②			
	8	ガーゼ灸(デモ) ガーゼ灸実技①			
	9	ガーゼ灸実技②			
	10	脾虚熱証の補瀉①			
	11	脾虚熱証の補瀉②			
	12	脾虚寒証の補瀉①			
	13	脾虚寒証の補瀉②			
	14	肺虚熱証の補瀉①			
	15	肺虚熱証の補瀉②			
	16	実技認定試験対策①			
	17	実技認定試験対策②			
	18	実技認定試験対策③			
	19	実技認定試験対策④			
	20	実技認定試験対策⑤			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3年
科目名	はりきゅう実技Ⅳ	授業方法	実 習	講師名	鈴木 陽平
授業目標	・頭痛・肩こり・腰痛・股関節痛・膝痛において鑑別診断および治療ができるようになる。 ・鍼灸でよく遭遇する疾患や障害に対して、適切な鍼灸治療の方法を身につける。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	頭痛における鍼灸治療 低周波鍼通電療法・脳貧血に対する対処について			
	2	頭痛における鍼灸治療 低周波鍼通電療法：側頭部の施灸			
	3	頸部由来神経根症への鍼灸治療：特徴及び徒手検査法			
	4	上腕骨外側上顆炎に対する鍼灸治療：パルス療法、灸施術、安静肢位について			
	5	肩こりに対する鍼灸治療：僧帽筋、肩甲拳筋パルス			
	6	肩こりに対する鍼灸治療：大円筋、小円筋パルス、灸施術			
	7	のぼせ・冷え・その他不定愁訴に対する鍼灸治療			
	8	五十肩に対する鍼灸治療：肩関節周りの施術			
	9	五十肩に対する鍼灸治療：遠隔部治療、条口・承山			
	10	膝痛に対する鍼灸治療：膝痛三穴、タナ障害、偽痛風			
	11	腰痛に対する鍼灸治療：低周波鍼通電療法：最長筋・腸肋筋：特徴及び徒手検査			
	12	腰痛に対する鍼灸治療：椎間関節刺鍼			
	13	腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸治療：総腓骨神経パルス			
	14	腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸治療：灸施術を中心に			
	15	股関節周囲の痛みに対する鍼灸治療：中殿筋、徒手検査			
	16	慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）に対する鍼灸治療：るい瘦、摂取カロリー			
	17	慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）に対する鍼灸治療：褥瘡ケア			
	18	婦人科疾患に対する鍼灸治療			
	19	悪心に対する鍼灸治療			
	20	小児に対する鍼灸治療（小児の風邪・喘息）			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他（ ）			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	経絡経穴学・基礎はりきゅう実技			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	はり及びきゅうの適応の 判断/病態生理学	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	末梢神経系の基礎から復習し、鍼灸治効の理解に必要な知識を習得し、応用力を身に着ける。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 末梢神経復習			
	2	第 8 章 鍼灸治効を理解するために必要な知識(P47～82)			
	3	体性感覚(P64～81)			
	4	〃			
	5	〃			
	6	自律神経系による調節(P54～60)			
	7	熱傷			
	8	第 9 章 鍼灸治効機序			
	9	鍼鎮痛(P95～104)			
	10	〃			
	11	〃			
	12	循環系と鍼灸(P104～110)			
	13	運動系の調節(P48～53)			
	14	〃			
	15	視覚器の機能と構造			
	16	〃			
	17	試験範囲提示			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説			
	20	総まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう理論 第3版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	生態観察/病態生理学	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	生態観察学、病態生理学を学ぶことで、これまでに学んできた解剖学・生理学の知識をさらに深め、臨床の場における身体診察や病態把握、施術等、様々な場面で応用できる能力を養う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	1. 人体の構成			
	2	〃			
	3	〃			
	4	2. 循環器系			
	5	〃			
	6	〃			
	7	3. 呼吸器系			
	8	〃			
	9	〃			
	10	4. 消化器系			
	11	〃			
	12	〃			
	13	5. 神経系			
	14	〃			
	15	6. 痛みの病態生理学			
	16	〃			
	17	〃			
	18	定期試験			
	19	痛みの病態生理学			
	20	〃 15回～17回、19回～20回:病態生理学			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他()			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 解剖学 第2版 生理学 第3版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	勝又 隆弘
授業目標	疾患または症候について、疫学や病態生理、主要症状や治療法、予後を学習し、鍼灸臨床での診療の際にスクリーニングが出来るよう知識を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	神経疾患	錐体路障害 運動ニューロン疾患		
	2		末梢神経障害		
	3	循環器疾患	心不全、弁膜症		
	4		冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)		
	5	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患①		
	6		肺機能検査(閉塞性換気障害と拘束性換気障害)		
	7		肺癌 その他①		
	8	消化管疾患	口腔疾患、食道疾患		
	9		胃疾患②		
	10		腸疾患②		
	11	肝胆膵疾患	肝疾患②		
	12		膵疾患		
	13	腎尿路疾患	腎疾患②、結石症		
	14	内分泌疾患	下垂体疾患		
	15		副腎疾患		
	16	代謝栄養疾患	糖尿病		
	17	整形外科疾患	関節疾患、筋腱疾患		
	18	定期試験			
	19	解答と解説			
	20	整形外科疾患	形態異常		
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	臨床医学各論(教科書)			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	櫻井迪代、原田菜央
授業目標	解剖学・生理学を主軸として生理・総論・各論・東臨などの知識を繋げて整理する。国家試験合格に向けて最低限の必要な知識を復習・習得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	総合解剖・生理学 循環器系			
	2	実力確認試験			
	3	病理学①			
	4	病理学②			
	5	病理学③			
	6	病理学④			
	7	総合解剖・生理学 循環器系			
	8	〃 循環器系			
	9	〃 循環器系			
	10	〃 循環器系			
	11	〃 呼吸器系			
	12	〃 呼吸器系			
	13	〃 呼吸器系			
	14	〃 呼吸器系			
	15	〃 消化器系			
	16	〃 消化器系			
	17	〃 消化器系			
	18	〃 消化器系			
	19	総合解剖・生理学 復習・まとめ			
	20	総合解剖・生理学 復習・まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 ☑授業態度 / その他()			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある。

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学臨床論Ⅰに引き続き、気血津液精、陰陽、臓腑の生理・病理などの東洋医学的な基礎知識、および四診情報の解釈の理論を応用しながら、具体的な症例に対し弁証論治の訓練を行い、臨床で活用可能な知識を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学臨床論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 咳嗽と咯痰			
	2	呼吸困難			
	3	鼻閉・鼻汁			
	4	脱毛症			
	5	耳鳴り・難聴			
	6	排尿障害			
	7	ED（勃起障害）			
	8	疲労と倦怠感			
	9	発熱、のぼせと冷え			
	10	浮腫			
	11	掻痒感（痒み）・肌荒れ・発疹			
	12	顔面麻痺			
	13	歩行異常			
	14	口渇・出血傾向			
	15	月経異常・性器出血など			
	16	小児特有の症候・認知症			
	17	まとめ			
	18	前期試験（筆記試験）			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 / ☑出席状況 ☑授業態度（減点方式） / その他（ ）			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	『新版 東洋医学概論』、『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	勝又 隆弘
授業目標	疾患または症候について、疫学や病態生理、主要症状や治療法、予後を学習し、鍼灸臨床での診療の際にスクリーニングが出来るよう知識を習得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	神経疾患	運動ニューロン疾患	末梢神経障害	
	2	その他の神経疾患			
	3	循環器疾患	先天性心疾患、不整脈		
	4	動脈疾患、血圧異常			
	5	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患②		
	6	閉塞性呼吸器疾患と拘束性呼吸器疾患			
	7	その他②			
	8	消化管疾患	胃疾患①		
	9	腸疾患①			
	10	肝胆膵疾患	肝疾患①		
	11	胆嚢疾患			
	12	腎尿路疾患	腎疾患①		
	13	その他			
	14	内分泌疾患	甲状腺疾患		
	15	副腎疾患、その他の内分泌疾患			
	16	代謝栄養疾患	高尿酸血症、ビタミン欠乏症と過剰症		
	17	整形外科疾患	骨代謝性疾患		
	18	定期試験			
	19	解答と解説			
	20	整形外科疾患	脊椎疾患、脊髄損傷		
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	臨床医学各論(教科書)			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 技	講師名	原田菜央、山崎康平、鈴木陽平
授業目標	鍼灸治療における適切な医療面接、身体診察、施術を行うことができる鍼灸師を目指す。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	臨床実習			
	2	臨床実習			
	3	臨床実習			
	4	臨床実習			
	5	臨床実習			
	6	臨床実習			
	7	臨床実習			
	8	臨床実習			
	9	臨床実習			
	10	臨床実習			
	11	臨床実習			
	12	臨床実習			
	13	臨床実習			
	14	臨床実習			
	15	臨床実習			
	16	臨床実習			
	17	臨床実習			
	18	臨床実習			
	19	臨床実習			
	20	臨床実習			
	21	臨床実習			
	22	臨床実習			
	23	臨床実習			
	24	臨床実習			
	25	臨床実習			
	26	臨床実習			
	27	臨床実習			
	28	臨床実習			
	29	臨床実習			

	30	臨床実習	
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)	評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()	
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑ 出席状況 / ☑ 授業態度 / ☑ その他(提出物)	10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。		
参考図書	教科書・参考書名		
	配布資料の有無	なし	

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	基礎実習・臨床実習	授業方法	講 義・実 習	講師名	櫻井 迪代
授業目標	臨床における症状や検査法の基礎を学び、臨床においてのリスク回避や適切な対応ができるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	第 2 章 診察の方法(p19-28)			
	2	第 3 章 生命徴候バイタルサインの診察(p29-37)			
	3	第 3 章 生命徴候バイタルサインの診察(p29-37)			
	4	第 4 章 全身の診察 1 顔貌・顔色 2 精神状態(p42-45)			
	5	〃 3 言語 4 身体測定(p46-49)			
	6	〃 5 体型 6 栄養状態 7 姿勢と体位(p51-54)			
	7	テスト前復習			
	8	中間テスト			
	9	〃 8 歩行(p54-56)			
	10	〃 9 皮膚、粘膜、皮下組織(p57-64)			
	11	〃 10 爪の状態、リンパ節、その他の一般状態(p65-69)			
	12	第 5 章 局所の診察 1 頭部 2 顔面 3 眼 (p72-74)			
	13	〃 3 眼 4 鼻 5 耳 (p74-78)			
	14	〃 6 口腔 7 頸部(p78-82)			
	15	〃 8 胸部 9 乳房(p84-85)			
	16	〃 13 背部 14 四肢(p98-103)			
	17	テスト前復習			
	18	後期試験			
	19	解剖 第 10 章 運動器系 VI 頭頸部の筋(p297-282)			
	20	解剖 第 10 章 運動器系 局所解剖(p211-309)			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 臨床医学総論 第 2 版			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	スポーツ・健康概論 I	授業方法	講 義・実 習	講師名	鬼頭 健介
授業目標	傷害発生時の評価・測定を理解し、実際の臨床現場で役立つ知識やテーピング・ストレッチ・エクササイズ技術を身につけながら治癒までの過程を学ぶ				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	傷害時の評価方法①・実技			
	3	②・実技			
	4	傷害時の身体測定・関節弛緩性・関節可動域・柔軟性・筋タイトネスの評価・測定①			
	5	〃 ②			
	6	テーピング概要			
	7	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト)①			
	8	下肢のテーピング(足関節:ヒールロック固定)②			
	9	下肢のテーピング(足関節:バスケットウィーブ固定)③			
	10	下肢のテーピング(膝関節:Xサポートテープ固定)①			
	11	下肢のテーピング(膝関節:復習・スパイラルテープ・サポートテープ)②			
	12	キネシオテーピング①			
	13	キネシオテーピング②			
	14	様々なストレッチ(全身)①			
	15	②			
	16	自重エクササイズ			
	17	テーピング総合実習			
	18	前期試験(実技試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	前期ポイントの復習/応急処置			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / □その他(持ち物)			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者(実践編)、日本体育協会公認アスレティック トレーナーテキスト 6 巻			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅱ	授業方法	実 習	講師名	原田 菜央
授業目標	東洋医学的診察法の基礎である四診法を学び、診察から治療までの一連動作を身に付け、基本的な病証を理解し、治療家としての視点を学ぶ。経絡治療の基礎である脈診法を学び、難経六十九難における病証及び治療穴の選択ができることを目標とする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス(授業評価方法及び実施要項)、東洋医学概論の復習			
	2	脈診の体験			
	3	腹診の実技と臍の塩灸①			
	4	腹診の実技と臍の塩灸②			
	5	四診法 望診①			
	6	四診法 望診②			
	7	四診法 聞診			
	8	四診法 問診①			
	9	四診法 問診②			
	10	四診法 問診③			
	11	中間試験			
	12	中間試験解説			
	13	四診法 切診①			
	14	四診法 切診②			
	15	まとめ			
	16	試験前練習			
	17	実技試験			
	18	定期試験(筆記)			
	19	定期試験解説 採点のポイント説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☑中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / □その他(持ち物)			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋医学概論、経絡経穴概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅱ	授業方法	実 習	講師名	鈴木 陽平
授業目標	・人体に安全かつ適切な刺鍼・施灸ができるようになる。 ・経穴の取穴を素早くかつ反応点をとらえられるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	人体の刺鍼注意点、オリエンテーション			
	2	前腕の刺鍼（合谷・温溜・手三里・曲池）			
	3	前腕の施灸（合谷・温溜・手三里・曲池・二間）			
	4	前腕の刺鍼（内関・大陵・郄門・尺沢・孔最）			
	5	前腕の施灸（内関・大陵・郄門・尺沢・孔最・労宮）			
	6	上腕の刺鍼（結節間溝・大結節・小結節・肩髃・肩髃） 座位にて施術			
	7	上腕の施灸（肩髃・肩髃・臂臑・秉風・巨骨） 座位にて施術			
	8	上肢帯後面の刺鍼・施灸（肩貞・臑兪・天宗・秉風・肩尖） 側臥位にて施術			
	9	長野式鍼灸治療実践			
	10	背部の刺鍼・施灸（膈兪・肝兪・脾兪・三焦兪） 肩甲骨下角の取り方			
	11	背部の刺鍼・施灸（風門以下すべての背部兪穴取穴および刺鍼）			
	12	頸部の刺鍼・施灸（瘰癧門・天柱・風池・完骨・安眠穴）			
	13	肩上部の刺鍼（大椎・風門・身柱・肩中兪・肩井）			
	14	腰部の刺鍼・施灸（腎兪・大腸兪・次髃・膀胱兪）			
	15	股関節周囲への刺鍼・施灸（環跳・風市・居髃） 側臥位にて施術			
	16	膝周囲への刺鍼・施灸（血海・梁丘・足三里・陽陵泉・陽陵泉・膝痛三穴）			
	17	下腿の刺鍼・施灸（三陰交・漏谷・光明・懸鐘）			
	18	足関節周囲の刺鍼・施灸（丘墟・太溪・照海・然谷・陰陽穴）			
	19	実技試験			
	20	顔面部の刺鍼（四神聰・百会・攢竹・陽白）			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☐ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他（ ）			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / ☐ その他（持ち物）			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	経絡経穴学・基礎はりきゅう実技			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅱ	授業方法	実 習	講師名	高木 敏和
授業目標	臨床において基礎となる血圧測定および体表の触診・ROM 計測・主な経穴の取り方の習得				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	血圧測定の説明 臨床総論(P34～35)			
	2	血圧測定の実施			
	3	関節可動域測定の方法と注意 リハ医学(P22～23)			
	4	頭部の触診と経穴の取穴 資料			
	5	頸部の ROM 計測			
	6	胸腰部の触診と経穴の取穴			
	7	胸腰部の ROM 計測			
	8	肩部の触診と経穴の取穴			
	9	肩の ROM 計測			
	10	肘および前腕の触診と経穴の取穴			
	11	肘および前腕の ROM 計測			
	12	股関節部の触診と経穴の取穴			
	13	股関節の ROM 計測			
	14	膝関節部の触診と経穴の取穴			
	15	膝関節の ROM 計測			
	16	復習			
	17	口頭試問に替わる筆記試験			
	18	実技試験			
	19	解説・採点のポイントの説明			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / □その他(持ち物)			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	リハビリテーション医学・経穴学・臨床総論教科書など			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	解剖学Ⅱa	授業方法	講 義	講師名	谷 美里
授業目標	筋肉の働き、動きを起始・停止を理解することで習得し、臨床においての患者への治療する筋や経穴の選定に活かせるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	第 10 章 運動器系 Ⅱ 全身の骨格 5.頭蓋骨(p189-210)			
	2	第 10 章 運動器系 Ⅲ 体幹 1 体幹の筋 浅胸筋・深胸筋(p211-214)			
	3	〃 腹筋・会陰筋(p214-219)			
	4	〃 背筋・深背筋(p219-224)			
	5	第 10 章 運動器系 Ⅲ 体幹 3 上肢の筋 (p237-238)			
	6	〃 上腕の筋(p238-242)			
	7	テスト前復習			
	8	中間テスト			
	9	〃 前腕の屈筋(p238-245)			
	10	〃 前腕の伸筋(p245-249)			
	11	〃 手の屈筋(p245-251)			
	12	第 10 章 運動器系 V 下肢の筋 (p265-274)			
	13	〃 下肢の筋(p238-242)			
	14	〃 下腿の筋(p274-279)			
	15	〃 足の筋(p279-282)			
	16	第 10 章 運動器系 VI 頭頸部の筋(p297-282)			
	17	テスト前復習			
	18	後期試験			
	19	体幹の運動(p224-226)・上肢の運動(p224-253)			
20	下肢の運動(p282-283)				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / □その他(持ち物)			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 解剖学 第 3 版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年		
科目名	関係法規	授業方法	講 義	講師名	森田 範子		
授業目標	鍼灸師に関する法律、関係法規を学び、患者と医療従事者の権利について考えられるようにする。また鍼灸師としての立場を自覚できるようにする。						
実務経験のある教員 等による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス 序論 法とは何か					
	2	第 1 章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律					
	3	1. 法制定の目的					
	4	2. 免許と試験					
	5	3. 業 務					
	6	4. 学校、養成施設					
	7	5. 指定試験（登録）機関					
	8	6. 審議会及び試験委員					
	9	7. 罰則					
	10	第 2 章 関係法規					
	11	1. 医事法規と医療制度		2. 医療法			
	12	3. 医師法（歯科医師法）					
	13	4. その他の医療従事者に関する法律		5. 薬事法規			
	14	6. 衛生関係法規					
	15	7. 社会福祉関係法規		8. 社会保険関係法規			
	16	9. その他の関係法規					
	17	まとめ					
	18	定期試験（筆記試験）					
	19	解説・採点のポイントを説明					
	20	復 習					
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			10 割		
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他（ ）			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 関係法規					
	配布資料の有無	有					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	基礎経絡経穴概論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	小名木 年邦
授業目標	経絡経穴を学ぶことにより、国家試験だけでなく臨床の現場に役立つ知識を得る。 経脈とは何かから学び、正経(十二経脈)、奇経(八脈)の特徴を知り、1年生の間は、 基礎経穴にメインとし、十四経脈の経穴の名前を言えるようになる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	総復習(督脈～足の陽明胃経)			
	2	足の陽明胃経			
	3	〃			
	4	足の太陰脾経			
	5	〃			
	6	手の少陰心経			
	7	手の太陽小腸経			
	8	〃			
	9	中間試験			
	10	足の太陽膀胱経			
	11	〃			
	12	〃			
	13	足の少陰腎経			
	14	〃			
	15	手の厥陰心包経			
	16	手の少陽三焦経			
	17	〃			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	返却・解説・採点のポイントを説明/足の少陽胆経			
	20	足の厥陰肝経/最終確認			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			5 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / ☐ その他(持ち物)			5 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会教科書 経絡経穴概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	自然科学概論	授業方法	講 義	講師名	末永 美雪
授業目標	地球と人類の進化を理解し、自然科学の発展・環境問題の概要を学ぶ。さらに栄養素の働きを学び、疾病と栄養の関係を理解し、正しい食生活支援ができることを目指す。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 人類と環境			
	2	人間活動と気候の変動			
	3	エネルギーと地球環境 酸性雨 オゾン層の破壊			
	4	森林と環境 環境を保全する森林 森林破壊			
	5	都市生活と環境 都市と水 ごみ問題			
	6	生活環境と疾病 がん 高齢化とがん			
	7	子供を取り巻く環境 物理的環境・情報環境・倫理的環境			
	8	食をめぐる課題と対応 正しい食生活			
	9	自然環境に関する課題レポート①			
	10	栄養素の種類と働き 糖質・脂質・タンパク質			
	11	栄養素の種類と働き ビタミン・ミネラル・食物繊維・水			
	12	疾病と栄養 ①栄養障害 肥満症			
	13	疾病と栄養 ②代謝疾患 糖尿病			
	14	疾病と栄養 ③循環器疾患 高血圧症			
	15	疾病と栄養 ④血液系疾患 貧血			
	16	疾病と栄養 ⑤免疫・アレルギー疾患 アレルギー症			
	17	支援の基本、コミュニケーションとカウンセリング			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	後期まとめ・復習 疾病と栄養に関する課題レポート②			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☒ その他()			筆記試験 6 割、課題レポート 2 割 合計 8 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / ☐ その他(持ち物)			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	教科書:臨床栄養学実習 栄養食事アセスメントとケアプラン 第 5 版 編集 芳本信子 学建書院			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	社会科学概論	授業方法	講 義	講師名	永田 まゆみ
授業目標	政治・経済等の法律の仕組みを理解をし、鍼灸師となった後、一社会人としての個々の立場・役割・法律の遵守など、法律を通じての社会人としてのマナーなどを得とくすることを目標とする。就職・独立等に関しシュミレーションをしながら医療人としての自覚を得ることを目標とする				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	社会科学概論・関係法規とは			
	2	社会人基礎力			
	3	社会人としての自覚			
	4	仕事への意識・能力・知識			
	5	自分に対する目標			
	6	組織の一員とは			
	7	社会人として求められるもの			
	8	ハラスメントの注意点			
	9	SNS等の注意点			
	10	真剣に働く・責任を持つ			
	11	就職・開業等について			
	12	就職・開業等について			
	13	就職・開業等について			
	14	就職・開業等について			
	15	就職・開業等について			
	16	就職・開業等について			
	17	就職・開業等について			
	18	就職・開業等について			
	19	前期試験			
	20	解説・質疑応答			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	生理学 I b	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	人体の生命現象の機序を理解し、患者を健康な状態に治療するために必要な知識の基礎を築く。また神経系、運動器系の働きや特徴を理解する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、 第10章 神経			
	2	中枢神経系			
	3	神経系まとめ			
	4	第11章 筋			
	5	骨格筋の構造と働き			
	6	筋の収縮の仕組み			
	7	筋のエネルギー供給の仕組み			
	8	心筋と平滑筋の構造と働き			
	9	第12章 運動			
	10	骨格筋の神経支配			
	11	運動の調節			
	12	錐体路と錐体外路、発声と言語			
	13	筋・運動まとめ			
	14	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (はりきゅう理論)			
	15	3. 感覚			
	16	4. 熱傷(炎症)			
	17	5. 体表の反応			
	18	定期試験			
	19	解 説			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☒ その他()			8割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / ☐ その他(持ち物)			2割 欠席－3点 遅刻、早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 生理学 はりきゅう理論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	東洋医学概論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学概論Ⅰで学んだ気血津液陰陽および臓腑の生理と病理といった基礎知識を、四診・弁証論治を行う際の臨床に即した場面で活用可能な応用知識に昇華させる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、第2章 生理と病理 五臓の相互関係(P127～142)			
	2	気機、経絡の病証(P143～160)			
	3	病因(P161～171)			
	4	病機(P171～180)			
	5	第4章 四診 望診(P202～212)			
	6	聞診、問診①(P213～219)			
	7	問診②(P219～248)			
	8	切診①(腹診・経穴診)(P249～255)			
	9	切診②(脈診)(P255～267)			
	10	第5章 弁証論治 八綱・気血津液弁証(P269～275)			
	11	臓腑・経絡・六淫弁証(P275～280)			
	12	六経・衛気営血・三焦弁証、標本と主客(P280～284)			
	13	治則(P285～288)			
	14	治法(P288～298)			
	15	治療法の概要(P298～306)			
	16	弁証論治の進め方と証の決定(P307～311)、弁証論治トレーニング			
	17	まとめ			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / ☐ その他(持ち物)			2割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会『新版 東洋医学概論』			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	1 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 技	講師名	松下 壘、小名木 年 邦、谷美里、櫻井 迪 代、鈴木陽平
授業目標	鍼灸治療における適切な医療面接、身体診察、施術を行うことができる鍼灸師を目指す。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	臨床実習			
	2	臨床実習			
	3	臨床実習			
	4	臨床実習			
	5	臨床実習			
	6	臨床実習			
	7	臨床実習			
	8	臨床実習			
	9	臨床実習			
	10	臨床実習			
	11	臨床実習			
	12	臨床実習			
	13	臨床実習			
	14	臨床実習			
	15	臨床実習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑ 出席状況 / ☑ 授業態度 / ☑ その他(提出 物)			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	なし			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅲ	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	トレーニング指導者の役割			
	2	トレーニング計画の立案(総論)			
	3	筋力トレーニングのプログラム作成			
	4	筋力トレーニングの実際			
	5	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	6	パワー向上トレーニングの実際			
	7	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	8	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際			
	9	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	10	スピード向上トレーニングの実際・前半のまとめ			
	11	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	12	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際			
	13	特別な対象のためのトレーニングとプログラム			
	14	傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム			
	15	トレーニング効果の測定と評価の実際			
	16	測定データの活用とフィードバックの実際			
	17	後半のまとめ			
	18	確認試験			
	19	試験解説・ポイント説明・おさらい			
	20	総括・運動と医学:スポーツ選手の整形外科的障害と予防			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	はりきゅう実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	小名木 年邦
授業目標	体表診察および関節可動性を学び適切な刺鍼部位への刺入技術を習得する。 主として下肢と体幹の大筋群への鍼通電療法を学び適切に対象筋を動かすことができる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス(授業評価方法及び実施要項)鍼通電療法の注意と概要			
	2	下肢の通電療法(前脛骨筋)			
	3	下肢の通電療法(長趾伸筋・長母趾伸筋)			
	4	〃			
	5	下肢の通電療法(腓骨筋群)			
	6	下肢の通電療法(下腿三頭筋)			
	7	下肢の通電療法(後脛骨筋)			
	8	下腿のスポーツ障害に対する鍼灸治療			
	9	下肢の通電療法(大腿四頭筋)			
	10	下肢の通電療法(ハムストリングス)			
	11	〃			
	12	下肢の通電療法(内転筋群)			
	13	大腿部のスポーツ障害に対する鍼灸治療			
	14	腰部の通電療法(殿筋群)			
	15	腰部の通電療法(起立筋群・腰方形筋)			
	16	〃			
	17	試験前練習			
	18	定期試験(実技試験)			
	19	試験解説			
	20	総括			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / □その他(持ち物)			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	運動学	授業方法	講 義	講師名	小名木 年邦
授業目標	人体の構造の復習を行うと共に、筋肉がどのような仕組みで働いているかを述べることができる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	A. 運動学の基礎(1. 関節と運動の力学(関節運動とてこ))			
	2	A. 運動学の基礎(2. 姿勢とその異常(重心と重心線))			
	3	A. 運動学の基礎(2. 姿勢とその異常(異常姿勢))			
	4	B. 身体各部の機能(8. 正常歩行)			
	5	B. 身体各部の機能(8. 正常歩行と異常歩行)			
	6	B. 身体各部の機能(8. 正常歩行と異常歩行)			
	7	総復習			
	8	総復習(練習問題)			
	9	後期試験(筆記試験)			
	10	返却・解説・採点のポイントを説明			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他()			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会教科書 リハビリテーション医学			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	解剖学Ⅱb	授業方法	講 義	講師名	谷 美里
授業目標	単なる用語の暗記ではなく、人体の構造に興味を持ち、 医療従事者として、臨床に即応する人体解剖の知識を習得してほしい。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	泌尿器系__腎臓(外観・被膜・腎門)			
	2	泌尿器系__腎臓(皮質・髄質・ネフロン)			
	3	泌尿器系__腎臓(血管・原尿の流れ)			
	4	泌尿器系__尿管・膀胱			
	5	泌尿器系__尿道			
	6	生殖器系__男性生殖器(精巣・精巣上体・精管・精嚢)			
	7	生殖器系__男性生殖器(前立腺・尿道腺・陰茎・陰嚢)			
	8	※呼吸器系・泌尿器系 中間試験 12/1(木) 予定 (60 点以下は追試対象)			
	9	生殖器系__女性生殖器(卵巣・卵管)			
	10	生殖器系__女性生殖器(子宮・膣・外陰部・会陰)			
	11	生殖器系__受精と発生			
	12	生殖器まとめ			
	13	内分泌系__下垂体・松果体			
	14	内分泌系__甲状腺・上皮小体			
	15	内分泌系__副腎・膵臓			
	16	内分泌系__精巣・卵巣			
	17	内分泌まとめ			
	18	後期試験			
	19	解説			
	20	総復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他() ※ ☒ マークシートを用いる			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会編 解剖学第2版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	関係法規	授業方法	講 義	講師名	森田 範子
授業目標	法の基礎を学び、免許制度(はり師・きゅう師等)の必要性や免許を持つことの重要性を理解することを目的とする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 法について			
	2	第 1 章 法制定の目的、免許と試験			
	3	免許と試験			
	4	業務①（業務の独占と業務の範囲、施術に関する注意）			
	5	業務②（施術所などに関する規則）			
	6	業務③（施術所に対する都道府県知事の監督など）			
	7	業務④（施術所の名称の制限及び広告の制限、業務の停止、無免許営業の取締り）			
	8	業務⑤（いわゆる医業類似行為業について）			
	9	学校・養成施設			
	10	指定試験(登録)機関、審議会及び試験委員			
	11	罰則			
	12	第 1 章 まとめ			
	13	第 2 章 関係法規			
	14	医事法規			
	15	医療従事者に関する法律			
	16	衛生関係法規			
	17	社会福祉関係法規			
	18	後期試験（筆記試験）			
	19	解説			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			8 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 ☐ その他（ ） ※ ☐ マークシートを用いる			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	関係法規 公益社団法人 東洋療法学校協会 編			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年		
科目名	公衆衛生学	授業方法	講 義	講師名	松下 壘		
授業目標	患者のライフスタイルにより起こる様々な疾患の知識を身に付け、その予防と対策、及びアドバイスが出来るようにする。						
実務経験のある教員 等による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス、第 8 章 成人・高齢者保健①					
	2	成人・高齢者保健②					
	3	成人・高齢者保健③					
	4	成人・高齢者保健④					
	5	第 1 章 衛生学・公衆衛生学の意義					
	6	第 2 章 健康①					
	7	健康②					
	8	健康③					
	9	第 3 章 ライフスタイルと健康①					
	10	ライフスタイルと健康②					
	11	ライフスタイルと健康③					
	12	第 4 章 環境と健康①					
	13	環境と健康②					
	14	環境と健康③					
	15	環境と健康④					
	16	後期復習①					
	17	後期復習②					
	18	定期試験					
	19	解 説					
	20	まとめ					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割		
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			欠席－3点 遅刻、早退－1点		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 衛生学・公衆衛生学 第 2 版					
	配布資料の有無	有					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	生理学Ⅱb	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	人体の生命現象の機序を理解し、患者を健康な状態に治療するために必要な知識の基礎を築く。また感覚、排泄、内分泌、生殖の特徴を理解する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	第5章 代 謝			
	2	代 謝①			
	3	第6章 体 温			
	4	体 温①			
	5	体 温②			
	6	第7章 排 泄①			
	7	排 泄②			
	8	排 泄③			
	9	第8章 内分泌①			
	10	内分泌②			
	11	内分泌③			
	12	内分泌④			
	13	内分泌⑤			
	14	第9章 生殖・成長と老化①			
	15	生殖・成長と老化②			
	16	生殖・成長と老化③			
	17	生殖・成長と老化④			
	18	定期試験			
	19	解 説			
	20	まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / □授業態度 □その他() ※□マークシートを用いる			2割 欠席－3点 遅刻、早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 生理学 第3版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	東洋医学臨床論Ⅰ	授業方法	講 義	講師名	山崎 康平
授業目標	「東洋医学概論」で学んだ気血津液精、陰陽、臓腑などの生理・病理についての基礎知識、および四診情報の分析法など応用知識を活用しながら、患者の症状に対し弁証論治の訓練を行い、臨床で活用可能な知識を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	頭痛			
	3	めまい			
	4	脱毛症			
	5	顔面痛			
	6	顔面麻痺			
	7	運動麻痺・歩行異常			
	8	頸肩腕痛			
	9	耳鳴り・難聴			
	10	眼精疲労			
	11	鼻閉・鼻汁			
	12	咳嗽と咯痰			
	13	喘息・呼吸困難			
	14	歯痛			
	15	胸痛			
	16	腹痛			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	『新版 東洋医学概論』『東洋医学臨床論<はりきゅう編>』 『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	臨床きゅう学	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	鍼灸刺激が人体に及ぼす影響と治効理論について理解し、鍼灸施術の意義を自分の言葉で患者に説明できるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、 第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識			
	2	3. 感 覚			
	3	4. 熱 傷			
	4	5. 体表の反応			
	5	第9章 鍼灸治効機序			
	6	1. はじめに 2. 鍼鎮痛			
	7	3. 循環系と鍼灸			
	8	4. 運動系と鍼			
	9	5. 消化器系と鍼 6. 泌尿器系と鍼			
	10	7. リラクセーションと鍼灸 8. 生体防御系と鍼灸			
	11	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点			
	12	1. 刺激部位 2. 刺激入力			
	13	3. 鍼灸刺激による治効機序			
	14	はりきゅう理論 まとめ			
	15	〃			
	16	〃			
	17	〃			
	18	定期試験			
	19	解 説			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他()			2割 欠席－3点 遅刻、早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう理論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	臨床医学各論 I	授業方法	講 義	講師名	勝又 隆弘
授業目標	疾患または症候について、疫学や病態生理、主要症状や治療法、予後を学習し、鍼灸臨床での診療の際にスクリーニングが出来るよう知識を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	血液造血器疾患 赤血球関連疾患 ～ 貧血など			
	3	白血球・リンパ網内系疾患 ～ 白血病など			
	4	出血性素因 ～ 止血と凝固			
	5	神経疾患 脳血管疾患 ～ 脳血栓症と脳塞栓症			
	6	～ 出血性疾患 問題演習			
	7	感染性疾患 ～ 髄膜炎 神経梅毒 ポリオなど			
	8	脳・脊髄腫瘍			
	9	基底核変性疾患 ～ パーキンソン病 舞蹈病など			
	10	その他の変性疾患 ～ 脊髄小脳変性症 脊髄空洞症など			
	11	認知症性疾患 ～ 血管型 アルツハイマー病など			
	12	筋疾患 ～ 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィーなど			
	13	運動ニューロン疾患 ～ 筋萎縮性側索硬化症			
	14	末梢神経疾患 ～ 多発神経炎(ギランバレー症候群 糖尿病など)			
	15	～ 単神経炎(絞扼障害など)			
	16	その他の神経疾患 問題演習			
	17	循環器疾患 心不全 弁膜症など			
	18	定期試験			
	19	解答解説			
	20	循環器疾患 その他の心臓疾患 冠動脈疾患			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう理論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	原田 菜央
授業目標	はり師・きゅう師として地域住民に求められる一般的な知識を理解するとともに、適切な治療技術を身に付けることを目標とする。また、実際の患者応対を想定した鍼灸実習体験を行う。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション(臨床実習の流れ、各種提出物について)			
	2	医療面接および身体診察 1			
	3	医療面接および身体診察 2			
	4	カルテ演習			
	5	カルテ演習			
	6	患者対応における諸注意			
	7	「鍼灸治療」に関するディスカッション 1			
	8	「鍼灸治療」に関するディスカッション 2			
	9	「鍼灸治療」に関するディスカッション 3			
	10	臨床実践 1			
	11	臨床実践 2			
	12	臨床実践 3			
	13	臨床実践 4			
	14	臨床実践 5			
	15	臨床実践 6			
	16	臨床実践 7 ※ポスター発表提出			
	17	ポスター評価会 1			
	18	ポスター評価会 2			
	19	フィードバック、まとめ			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 ☑その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 ☑その他(実習内提出物)			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 東洋医学臨床論 他			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	櫻井 迪代
授業目標	臨床実習に向けて患者さんへのテスト法を習得する。病態の把握、識別をして適切な治療ができるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	臨床総論復習			
	2	テスト法の意義			
	3	頸部のテスト法			
	4	頸部のテスト法			
	5	上肢のテスト法			
	6	上肢のテスト法			
	7	上肢のテスト法			
	8	下肢のテスト法			
	9	下肢のテスト法			
	10	下肢のテスト法			
	11	中間テスト 復習			
	12	中間テスト			
	13	腱反射			
	14	粘膜反射・皮膚反射			
	15	病的反射			
	16	MMT			
	17	テスト前復習			
	18	後期試験			
	19	身体計測			
	20	総論			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他() ☒ マークシートを用いる			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	配布資料			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年		
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	原田 菜央		
授業目標	今まで学んできた東洋医学の知識の復習をするとともに、国家試験に向けて、問題を解く際にその知識をいかに引き出すかを繰り返しおこない、記憶を定着させることを目標とする。						
実務経験のある教員 等による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	授業ガイダンス					
	2	実力確認試験					
	3	試験解説(陰陽論・五行論・気思想)					
	4						
	5	試験解説(気・血・津液の概要と病証)					
	6						
	7	試験解説(臓腑病証)					
	8						
	9	試験解説(経絡病証)					
	10						
	11	基礎理論まとめ					
	12						
	13	弁証論治の概要					
	14						
	15	四診法の概要					
	16						
	17	四診法					
	18						
	19	総括 1(実技演習および特別講座の実施)					
	20	総括 2(実技演習および特別講座の実施)					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()					
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			10 割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	東洋医学概論・東洋医学臨床論					
	配布資料の有無	有					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	原田 菜央
授業目標	・膝痛・スポーツ傷害において鑑別診断および治療ができるようになる。 ・鍼灸でよく遭遇する疾患や障害に対して、適切な鍼灸治療の方法を身につける。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	病理学 国家試験対策① オリエンテーション			
	2	病理学 国家試験対策② 総論1			
	3	病理学 国家試験対策③ 総論 2			
	4	病理学 国家試験対策④ 循環障害			
	5	病理学 国家試験対策⑤ 腫瘍1			
	6	病理学 国家試験対策⑥ 腫瘍2			
	7	病理学 国家試験対策⑦ アレルギー			
	8	病理学 国家試験対策⑧ 自己免疫			
	9	病理学 国家試験対策⑨ その他			
	10	病理学 国家試験対策⑩ 総括			
	11	リハビリテーション治療 過去問、解説			
	12	第 1 章 総まとめ			
	13	リハビリテーション医学 国家試験対策①			
	14	リハビリテーション医学 国家試験対策②			
	15	リハビリテーション医学 国家試験対策③			
	16	リハビリテーション医学 国家試験対策④			
	17	リハビリテーション医学 国家試験対策⑤			
	18	リハビリテーション医学 国家試験対策⑥			
	19	リハビリテーション医学 国家試験対策⑦			
	20	総括			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☐ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	病理学・リハビリテーション医学			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年			
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	勝又 隆弘			
授業目標	疾患または症候について、疫学や病態生理、主要症状や治療法、予後を学習し、鍼灸臨床での診療の際にスクリーニングが出来るよう知識を習得する。授業後半では臨床医学総論で習得済みの診察学や病態生理、臨床医学各論で習得済みの疾患の知識をつなぎ合わせ、鍼灸臨床での病態把握がよりスムーズに行えるようにするとともに、国家試験の対策をする。							
実務経験のある教員等による授業科目								
授業内容及び進度	回数	項目・内容						
	1	代謝・栄養疾患	脂質異常症、高尿酸血症など					
	2	ビタミン欠乏症と過剰症など 問題演習						
	3	整形外科疾患	筋・腱疾患の病態と治療など					
	4	形態異常 先天性股関節脱臼 斜頸など						
	5	脊椎疾患 ヘルニア 変形性脊柱症など						
	6	脊髄損傷 頸椎症と頸髄症など						
	7	外傷 脱臼 骨折 捻挫など						
	8	スポーツ外傷						
	9	その他の整形外科疾患 問題演習						
	10	リウマチ性疾患・膠原病	関節リウマチ	SLE	ベーチェット病など			
	11	アレルギー性疾患 問題演習						
	12	その他の領域	一般外科など	問題演習				
	13	麻酔科	全身麻酔と局所麻酔	鎮痛	問題演習			
	14	婦人科	小児科	耳鼻科など				
	15	精神科	その他	問題演習				
	16	症状の診察と疾患の鑑別(血液造血器) 問題演習						
	17	症状の診察と疾患の鑑別(循環器、呼吸器) 問題演習						
	18	症状の診察と疾患の鑑別(消化器、泌尿器) 問題演習						
	19	鍼灸臨床の実際 ～ 病態把握の考え方 治療点の求め方						
	20	鍼灸臨床の実際 ～ 治療効果の判定						
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合			
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()						
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 □その他() ※□マークシートを用いる			10 割			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。							
参考図書	教科書・参考書名	配布資料						
	配布資料の有無	有						

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	松下 壘
授業目標	総合領域の中で今まで学んだ経穴の確認、鍼灸師として必要な医療概論の知識を国家試験だけでなく臨床の現場に役立つよう再確認を行う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	十四経脈総復習			
	2	十四経脈について			
	3	流注について			
	4	要穴について			
	5	骨度法・体表指標			
	6	腰背部の経穴			
	7	胸腹部の経穴			
	8	〃			
	9	上肢の経穴			
	10	〃			
	11	下肢の経穴			
	12	〃			
	13	医療概論			
	14	〃			
	15	その他の経穴			
	16	〃			
	17	〃			
	18	総復習			
	19	総復習			
	20	総復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 □その他() ※□マークシートを用いる			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会教科書 経絡経穴概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	患者の病態の特徴を理解し、症状から疾患を考えることができるようにする。 これまでに学んだ内容の復習及び、さらに深い学習を行い国家試験で合格できる知識を習得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、生命徴候			
	2	体温、脈拍			
	3	血圧、呼吸			
	4	顔 貌			
	5	異常歩行			
	6	姿勢と体位			
	7	体格、栄養			
	8	精神状態			
	9	皮膚、粘膜、発声、会話、リンパ節			
	10	顔面の診察、眼の診察、耳の診察、口腔、歯の診察			
	11	頸部の診察			
	12	胸部の診察			
	13	腹部の診察			
	14	背部の診察			
	15	上肢の診察			
	16	下肢の診察			
	17	筋肉の診察			
	18	定期試験			
	19	解 説			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他() ※ ☒ マークシートを用いる			欠席－3点 遅刻、早退－1点
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 臨床医学総論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	中澤 寛元
授業目標	国家試験に向け、今まで学んできた内容を整理するとともに、東洋医学の各領域について課題などから傾向と対策を図る。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、前期までのポイント復習			
	2	東洋医学系臨床総論1			
	3	東洋医学系臨床総論2			
	4	東洋医学系臨床総論3			
	5	東洋医学系臨床総論4			
	6	東洋医学からみる内科系疾患1			
	7	東洋医学からみる内科系疾患2			
	8	東洋医学からみる内科系疾患3			
	9	東洋医学からみる内科系疾患4			
	10	東洋医学からみる耳鼻咽喉・泌尿器・生殖器系疾患1			
	11	東洋医学からみる耳鼻咽喉・泌尿器・生殖器系疾患2			
	12	東洋医学からみる耳鼻咽喉・泌尿器・生殖器系疾患3			
	13	東洋医学からみる外科系疾患1			
	14	東洋医学からみる外科系疾患2			
	15	東洋医学からみる外科系疾患3			
	16	東洋医学からみる外科系疾患4			
	17	東洋医学からみる外科系疾患5			
	18	総まとめ1			
	19	総まとめ2			
	20	後期の振り返り			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 □その他() ※□マークシートを用いる			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 臨床医学総論、臨床医学各論ほか			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	実 習	講師名	鈴木 陽平
授業目標	・膝痛・スポーツ傷害において鑑別診断および治療ができるようになる。 ・鍼灸でよく遭遇する疾患や障害に対して、適切な鍼灸治療の方法を身につける。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、ペアでの鍼灸治療(婦人科疾患)			
	2	ペアでの鍼灸治療(呼吸器疾患)			
	3	東洋医学臨床論問題演習①			
	4	東洋医学臨床論問題演習②			
	5	ペアでの鍼灸治療(眩暈、耳鳴り)			
	6	ペアでの鍼灸治療(悪心嘔吐)			
	7	ペアでの鍼灸治療(便秘・下痢)			
	8	東洋医学臨床論問題演習③			
	9	東洋医学臨床論問題演習④			
	10	ペアでの鍼灸治療(不眠)			
	11	高齢者に対する鍼灸治療① (拘縮筋への低周波鍼通電療法)			
	12	高齢者に対する鍼灸治療② (歩行改善のアプローチ)			
	13	肋間神経痛に対する鍼灸治療			
	14	腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸治療① (神経根症状に対するアプローチ)			
	15	腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸治療② (総腓骨神経パルス実践)			
	16	皮膚疾患に対する鍼灸治療 (アトピー性皮膚炎のケアについて、肩髃、築賓)			
	17	子午治療実践(接触鍼実践)			
	18	高齢者に対する鍼灸治療 (往診での心がけ、脾胃へのアプローチ)			
	19	脳血管疾患への鍼灸治療①			
	20	脳血管疾患への鍼灸治療②			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☐ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	経絡経穴学・東洋医学臨床論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	櫻井 迪代
授業目標	生理学・解剖学を理解し病気の特徴や症状、治療法などを考えられるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	前期の復習			
	2	腎臓の生理・解剖			
	3	腎臓の病気			
	4	膀胱の生理・解剖			
	5	膀胱の病気			
	6	内分泌の生理・解剖			
	7	内分泌の生理・解剖			
	8	内分泌疾患			
	9	生殖器生理・解剖			
	10	生殖器生理・解剖			
	11	骨の生理・解剖			
	12	整形外科的疾患			
	13	膠原病・ビタミン代謝			
	14	一般外科			
	15	復習(心臓・血管・血液)			
	16	復習(肺・呼吸器)			
	17	復習(消化器)			
	18	復習(腎臓・膀胱)			
	19	復習(内分泌・膠原病)			
	20	治療家をお招きしての最後の授業			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 □その他() ※□マークシートを用いる			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	配布資料			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年		
科目名	病態生理学	授業方法	講 義	講師名	小名木 利邦		
授業目標	これまでに学んできた疾病の病態生理を理解することで、疾病に対する理解を深め、臨床の場における身体診察や病態把握、施術等、様々な場面で応用できる能力を養う。						
実務経験のある教員等による授業科目							
授業内容及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス、前期までのポイント復習					
	2	第8章 内分泌①					
	3	内分泌②					
	4	内分泌③					
	5	内分泌④					
	6	第9章 生殖・成長と老化①					
	7	生殖・成長と老化②					
	8	生殖・成長と老化③					
	9	生殖・成長と老化④					
	10	まとめ					
	11	ライフスタイルが健康に及ぼす影響					
	12	環境が健康に及ぼす影響					
	13	労働が健康に及ぼす影響					
	14	精神異常が健康に及ぼす影響					
	15	母子の健康障害					
	16	高齢者保健と生活習慣病					
	17	感染症					
	18	定期試験					
	19	解 説					
	20	まとめ					
成績評価の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割		
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 ☐ その他() ☒ マークシートを用いる			3 割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 生理学 第2版 臨床医学総論、臨床医学各論					
	配布資料の有無	有					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	臨床はり学	授業方法	講 義	講師名	高木 敏和
授業目標	生理学・解剖学を理解し病気の特徴や症状、治療法などを考えられるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	国家試験過去問題および国家試験以外の問題実施・解答・解説			
	2	〃			
	3	〃			
	4	〃			
	5	〃			
	6	〃			
	7	〃			
	8	〃			
	9	〃			
	10	〃			
	11	〃			
	12	〃			
	13	〃			
	14	〃			
	15	〃			
	16	模擬試験			
	17	模擬試験の解答・解説			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	解説・採点のポイントの説明			
	20	臨床に役立つ治療について			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 ☐ その他() ※ ☐ マークシートを用いる			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	鍼灸理論・生理学・病理学・東洋医学概論教科書など			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある